

【愛知用水について】

愛知用水の水瓶：牧尾ダム

牧尾ダムは、愛知用水事業の水源施設として、昭和 36 年に完成した中心コア型ロックフィルダム（岩石を積み上げてつくる工法）です。愛知用水事業は、長年、水不足に苦しんできた知多地域の人々の熱心な運動がきっかけとなり着手されたもので、木曾川の水を活用し、岐阜・愛知にまたがる 38 市町（当時）への農業用水、工業用水や水道水の供給を目的に、わが国最初の国土総合開発事業として実施されました。この事業で整備されたのは、牧尾ダム、幹線水路、支線水路、調整池など。建設にあたっては、世界銀行からの借款や技術援助を受け、わずか 5 年という短期間のうちに完成されました。以来、愛知用水は水の大動脈として、中部圏の飛躍的な発展に大きく貢献し、今やこの地域の生活や産業にとって、なくてはならないライフラインとなっています。また、ダムの放流水を使って 35,500kW(24 万人分)の発電を行っています。

- ①位置 長野県王滝村・木曾町三岳
- ②総貯水量 75,000,000 m³
(名古屋ドーム約 55 杯分)
- ③有効貯水量 68,000,000 m³
- ④工事費 9,766,000 千円



【牧尾ダム全景】

愛知用水のあゆみ

- | | | |
|-----------------|-------|----------------------|
| 1948 年（昭和 23 年） | 6 月 | 建設運動が始まる |
| 1949 年（昭和 24 年） | 7 月 | 農林省が調査開始 |
| 1952 年（昭和 27 年） | 5 月 | 愛知用水土地改良区設立等推進母体の発足 |
| 1955 年（昭和 30 年） | 1 0 月 | 愛知用水公団設立 |
| 1957 年（昭和 32 年） | 8 月 | 世界銀行借款契約、政府保証契約に調印 |
| 〃 | 1 1 月 | 工事着工 |
| 1961 年（昭和 36 年） | 9 月 | 工事完了（通水開始・管理開始） |
| 1962 年（昭和 37 年） | 5 月 | 水資源開発公団設立 |
| 1968 年（昭和 43 年） | 1 0 月 | 愛知用水公団を水資源開発公団に統合 |
| 1982 年（昭和 57 年） | 3 月 | 愛知用水二期事業開始 |
| 1996 年（平成 8 年） | 3 月 | 牧尾ダム堆砂対策事業開始 |
| 2003 年（平成 15 年） | 1 0 月 | 水資源開発公団から（独）水資源機構へ移行 |
| 2005 年（平成 17 年） | 3 月 | 愛知用水二期事業（水路等施設）完了 |
| 2007 年（平成 19 年） | 3 月 | 愛知用水二期事業（牧尾堆砂対策）完了 |

愛知用水のはたらき

（農業用水）

岐阜県可児郡御嵩町から名古屋市の北や東の台地、知多半島の先までのみよし市を

含む 27 の市町にある約 15,000ha の田や畑で、稲や野菜など作物を育てるのに使用されています。

(水道用水)

浄水場できれいにされた飲み水は、春日井市の高蔵寺ニュータウンや瀬戸市、尾張旭市など名古屋市の北側や東側の 11 市町の家計約 85 万人に使用されています。

(工業用水)

岐阜県可児市にある工場と、名古屋市の南部や名古屋港から知多半島北部の伊勢湾沿岸の工場地帯で、鉄鋼業、繊維工業、化学工業など約 80 カ所の工場で使用されています。

愛知用水水路の役割

愛知用水は、幹線水路と支線水路があります。幹線水路は、兼山取水口（岐阜県八百津町）から美浜調整池（愛知県南知多町）までの長さ約 112 km（木曾川全長の約 1/2 の長さ）の長大な施設で、「命の水」を運ぶ大切な役割を持っています。幹線水路は、ポンプなどを使わないで自然流下で水を運ぶよう設計されています。支線水路は、この幹線水路から分岐して約 1,000 km に及んで網の目のように広がって田や畑に水を送っています。

